【令和６年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立下阪本小学校

〇調査目的	◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《国語科・算数科　調査結果より》

国語科

・本校の全領域の結果内で比較すると、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」が最も良い結果となっていた。
・「思考力、判断力、表現力等」の「読むこと」「話すこと・聞くこと」、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られた。
・物語を読んで、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして記述で解答する部分に、無解答が多く見られた。

算数科

・本校の全領域の結果内で比較すると、「Ｂ　図形」が最も良い結果となっていた。
・「データの活用」「数と計算」「変化と関係」で、課題が見られた。
・折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述で解答する部分に無解答が多く見られた。

《児童質問紙の回答結果より》

・算数科と外国語科（英語）について、「勉強が好き」と回答した児童の割合が全国平均より高かったが、国語科と理科については、その割合が低かった。
・「将来の夢や目標を持っていますか」で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合が高かった。
・「人が困っている時は、進んで助けていますか」で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合が高かった。
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合が高かった。
・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」で、「できている」「どちらかといえば、できている」と答えた児童の割合が高かった。
・「朝食を毎日食べていますか」で、「食べている」「どちらかといえば、食べている」と答えた児童の割合が、やや低かった。
・勉強のためのICT機器使用時間は少ない傾向にあったが、テレビ等のゲーム、スマートフォン等でのSNSや動画視聴の時間が多い傾向にあった。

【指導の充実に向けて】

〇学ぶことへの喜びを実感できる子どもを育成します。
〇児童が主体的に学習に取り組み、根拠を基に考えることができるよう、算数科を始め、さまざまな教科で授業改善に努めます。
〇自分でまとめる活動に焦点を当て、読解力や文章表現力を伸ばします。また、言語活動を充実させ「話すこと・聞くこと」の力を伸ばします。
〇文章表現力を支える土台づくりとして、読書活動を推進し、各教科の学習において記述の活動を計画的に取り入れます。
〇反復学習、話し合い活動などで学習支援ソフトなどのICT教材を積極的に活用し、基礎学力の向上に努めます。
〇自ら前向きに判断し、自他に対して適切な行動のできる子ども（自立した子ども）を育てます。
〇児童自らが様々な課題に向かい解決できる力を育成できるよう、「学校夢づくりプロジェクト」など、自尊感情を高めるための取組を継続・充実させます。
〇食育や情報モラル教育の充実に努めます。